

令和6年度第1回碧南市子ども・子育て会議 会議録

1 日時

令和6年8月9日（金）午後2時～午後3時45分まで

2 場所

碧南市役所2階 会議室4・5

3 出席者及び欠席者

- (1) 出席者 鈴木政枝、小田直樹、水野裕子、杉浦時雄、兵藤俊宏、清澤和音、水野紀子、長濱みち、新美慶太郎、鈴木忠義、田邊光徳、加藤里美、栗並えみ、安本直美、渡部努（委員兼アドバイザー）
- (2) 欠席者 杉浦龍一、角谷亜哉、森繁一、稲生貴弘、近藤雅明
- (3) 事務局職員 福祉子ども部長 深津広明、子ども課長 鈴木美奈子、子ども課指導保育士 永井邦枝、子ども課指導主事 杉浦由美子、子ども課幼保係係長 鈴木洋平、子ども課育成支援係係長 長澤貴行、育成支援係主事 高橋梨香、福祉課発達支援係主事 堀部莉加、健康課課長補佐母子保健係 杉浦あゆみ

4 傍聴者 なし

5 議題

- (1) 第3期碧南市子ども・子育て支援事業計画（案）について
 - 第1章 計画の策定にあたって
 - 第2章 子どもと家庭を取り巻く状況
 - 第3章 計画が目指す将来像
 - 第4章 事業計画
- (2) 家庭的保育事業等（小規模保育事業）の認可等について
- (3) その他

6 議事録

- (1) あいさつ（鈴木会長）
- (2) 議題
 - ア 第3期碧南市子ども・子育て支援事業計画（案）について

「第1章 計画の策定にあたって」、「第2章 子どもと家庭を取り巻く状況」について事務局が資料に基づき説明

A委員：いろいろな項目でクロス集計をしたと思うが、他にどんな項目でしているのか。

事務局：ニーズ調査を経て量の見込みや確保策を決めていくが、アンケートの質問項目や、量の見込みの計算方法は国から示されている。示された方法でクロス集計することで、単純集計では分からない、意向の部分が反映されている。例えば、幼稚園や保育園の量の見込みなど、潜在的な就労希望や利用したい園などを量の見込みの1号認定・2号認定などに反映している。

B委員：父親の育児休業制度の利用状況はどうか。

事務局：男性の育児休業については、平成30年度頃から国が動いており、5年前に比べると取得しやすいよう環境が整備されてきている。

B委員：今後、育児休業を取得する父親が増えていくということか。

事務局：国も力を入れているため、増えていくと考えられる。実際に幼稚園・保育園でも育児休業を取得しているという父親が増えてきている。

ア 第3期碧南市子ども・子育て支援事業計画（案）について

「第3章 計画が目指す将来像」、「第4章 事業計画」について事務局が資料に基づき説明

B委員：施設の建て替えについてだが、築何年くらいの建物が対象になるのか。

事務局：状況等にもよるが、50年前後が目安になってくる。その時点で、今後大規模な改修をするのか、建て替えるのかを検討していく。改修では部屋の数等は変わらないため、その時の保育ニーズを見てどちらにするのか決めていくことになる。

B委員：今後は民間園と統合する流れになっていくのか。

事務局：今回に関していえばそうだが、今後どうしていくのかはその都度検討し、最適な方法で進めていく。

事務局：公立園は昭和40年代から50年代に建てられたものが多く、大規模改修または建て替えが必要になってくる。築山保育園は昭和50年に建てられ、築50年を経過しており、大規模改修または建て替えが必要な状態となって

いる。大浜幼稚園は、定員に対して定員割れが続いている。今回、同じ小学校区に建て替え用地が確保できることとなったため、築山保育園と大浜幼稚園を統合し、民営化して整備することで、財源を確保しつつ、施設の老朽化と低年齢児の保育ニーズの増加に対応していく。

B委員：幼稚園保育園では、新型コロナウイルス等の感染が広がりやすいという傾向があるが、新しく建てる民間園は、感染症対策について考えられているのか。

事務局：現在、具体的に決まっていることはないが、今後現状を見ながら進めていきたい。

C委員：碧南市に住むの外国籍の方の割合は約9%であり、愛知県で2位の多さである。自分のクリニック利用者の中には、ベトナムの方が多いため、ポルトガル語だけではなく、ベトナム語の支援についても対応していただきたい。

事務局：現在、ベトナム人支援のための園の巡回訪問は行われていないが、市役所では多言語の相談窓口が設けられており、ベトナム語の通訳者もいるため、こども課にベトナムの方が手続きに来たときには対応できるようになっている。

A委員：意見が3点ある。

1点目は、先ほどの話にもあったが、外国籍の方への対応について。第3期支援事業計画の施策の方向性に、インクルーシブな子どもの保育・教育環境の提供ということを掲げていく中で、多言語対応については、各園にデバイスを配置するのみでは残念だと感じる。市役所の窓口ではベトナム語の通訳者もいるということだが、来てくれた方へのみの対応となるため、アウトリーチ型の対応ができるように拡充していただきたい。

2点目は、築山保育園と大浜幼稚園の統合について。これまで、宅地開発による子育て世帯の増加に対応するための保育の拡充がなかった中で、今回区画整理区域内に新たにこども園を設置し、保育園の老朽化だけでなく幼稚園の定員割れにも対応していくという方向性はとても良いと感じる。支援事業計画の量の見込みに合うように今後も進めていただきたい。

3点目は、プチ保育について。これから始まる誰でも通園制度はプチ保育と大きく内容が変わらないということを知り、碧南市は国がやることに先駆

けた取り組みをしているんだなと感じた。現行のプチ保育に国が進める制度を合わせることで、より安定的に運営されることを期待している。

また、レスパイトに対してだが、以前からトワイライトステイ等の受け入れ体制はあるが、利用実績がないという状態があるため、誰でも通園制度とトワイライトステイ等を合わせて利用できるような形を考えていけると良いのではないかと思う。違う枠組みの事業のため難しいとは思いますが、レスパイトでの事業の利用しやすさを高めることや、プチ保育を就労利用で使っていた人が利用できなくなってしまうということを解消できるような形で進めていただきたい。

事務局：誰でも通園制度とショートステイ・トワイライトステイは、制度は異なるが、どちらもこども課が所管しているため、利用者に対する情報提供を行うことで、適切な支援に繋がっていきたい。

事務局：プチ保育の私的利用の部分のみを今回誰でも通園制度に合わせていく。病気や就労等による利用については現行のプチ保育を残していく。

D委員：説明の中に、子育てをしながら働きやすいようにとあったが、働くことの方が中心のように感じる。働きながら子育てしやすいというように順番を変える方が良いのではないかと思う。会社や企業側が男性の育児休業を取りやすい雰囲気を作るなど、みんなで子育てを支えるという意識が社会的に常設されることで、子育てしやすい碧南になると思う。

事務局：社会全体で子育てを支えていかなければならないという中で、言葉の使い方1つで政策等の方向性が変わることもあるため、表現の方法について今後参考にさせていただきたい。

E委員：支援事業計画を見ると、碧南市では色々な事業が行われていると感じるが、お母さん目線の施策があるとより良いのではないかと思う。碧南市は比較的祖父母等に子育てを助けてもらえる家庭が多い地域だと思うが、頼る人がおらずワンオペで追い詰められているお母さんも多くいるため、お母さんが休めるような施策があると、出生率の低下を防ぐことにも繋がるのではないかと思う。

次に、質問が4点ある。

1点目は、計画の中に産後ケアの利用件数についての記載がないこと。開

始して間もないからなのか。

2点目は、DVについて。DVによる虐待の対象は何歳から何歳までの子どもなのか。

3点目は、保育園・幼稚園での医療的ケア児の受け入れについて。看護師との配置の話があったが、付き添い保育ではなく預けられるようになっていくのか。

4点目は、民間園に対しての潜在保育士の掘り起しについて。大変なことだと思うが、具体的に考えはあるのか。

事務局：1点目の産後ケアについては、支援事業計画には事業名のみ載せており、量の見込み等は載せていない。事業は令和6年度から事業内容を拡充して始めており、量の見込み等を載せていくかどうか、今後検討していく。

2点目のDVについては、対象は18歳未満であり、乳幼児から小学生、中学生まで様々な相談がある。

3点目の医療的ケア児については、現在、医療的ケア児の入所希望があった場合、関係者が集まり、保護者の話を聞きながら可能な方法を検討している。また、看護師を配置している園から、もう少し手厚い支援をしたいという話があったため、准看護師を配置できるよう準備を進めている。

4点目の潜在保育士の掘り起しについては、今年の11月頃に民間保育園で潜在保育士に向けての見学会を行うことを考えている。早ければ10月の広報で募集ができるように進めており、開催した様子を見て、今後どうしていくか更に検討していきたい。

事務局：医療的ケア児の補足だが、福祉課の発達支援係に医療的ケア児や療育を始めとした発達関係を専門とする部署があり、にじの学園での親子通所型支援、あいくるでの親子の療育事業、市役所での相談等3つを拠点としているが、機能を整理していこうと話がある。先ほど大浜幼稚園と築山保育園の統合の話があったが、大浜幼稚園はまだ築浅のため、そこに療育等の機能を集約した総合拠点づくりをしようと検討している。にじの学園を総合拠点に持ってくる際に、障害福祉サービスにのっとった形で単独通所型の療育事業所を展開していきたいと考えている。

F委員：児童虐待の話があったが、0歳から18歳未満の児童が対象となる。両

親がけんかをしている場に対象児童がいることでの心理的虐待のことを面前DVと言ひ、0歳児でも対象となる。児童虐待は警察が認知することが多いが、相談があった場合は児童相談所に通告しており、市役所等に連絡があった場合にも児童相談所に通告してもらっている。また、定期的に関係機関と情報交換し、速やかな対応ができるようにしている。

D委員：潜在保育士の話があったが、現在全国的に保育士が足りないという状況である。園長会でも話題となり、民間園でも広報等で保育士の募集ができないかと市役所に相談したところ、即座に動いていただき、広報に記事を出してもらうことが出来た。感謝している。

A委員：今後に向けてだが、市町村こども計画と支援事業計画の関係について協議していただきたい。

事務局：市町村こども計画は、支援事業計画の内容を含め、その他、就労・結婚・貧困など、様々な内容を取り扱うものであり、こども課だけではなく全庁的に関わるため、今後状況を見ながら検討していきたい。

A委員：市町村こども計画の策定は努力義務のため、策定しないと抜け落ちてしまう分野があると思う。こども計画に支援事業計画を合わせて策定する市町村もあると聞くため、碧南市でも、こども計画で扱う広い分野をこの会議で検討できると良いなと思う。

事務局：こども大綱は、少子化社会対策大綱、子供・若者育成支援推進大綱、子供の貧困対策に関する大綱の3つを1つに束ねてこども施策に関する基本的な方針等を一元的に定めたものであり、こども大綱をもとに策定するのがこども計画である。こども計画と支援事業計画を一体のものとして策定することも一つの案であり、その際には皆様からご意見をいただきたい。

イ 家庭的保育事業等（小規模保育事業）の認可等について

事務局が資料に基づき説明

A委員：施設設備が充実しており良いと思う。屋外遊技場を園外で確保するというのは市内で初めての事例である。日常的に施設外へ行くことになるため、安全に移動できるように努めていただきたい。

ウ その他

G委員：支援事業計画を見て、国の施策に沿って吟味されていると感じた。切れ目のない支援というのが計画の中でも出てくるが、こども家庭庁も、幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョンの中で切れ目のない支援について取り上げている。幼稚園に入ったり小学校に入ったりと、通う施設が変わるとどうしても切れ目ができやすいことが今まで指摘されてきたため、そこに目を向けているのは良いと感じた。

ご意見の中に子どもを一番にするという話があったが、国も、子ども基本法を策定し、こども家庭庁が音頭を取りながらこどもが真ん中になる社会づくりを進めている。碧南市も愛知県の先頭に立って進めてほしい。

母親への支援についてだが、現在支援を利用することに対してネガティブに捉えられてしまう傾向がある。支援を利用するのは当たり前だというポジティブな捉え方ができるよう、周知の方法を工夫することで、母親が支援を利用するハードルが下がるのではないかと思う。

保育施設の建て替えの話については、碧南市だけではなく全国で検討されている。特に地域の幼稚園は定員割れの所が出てきている。碧南市の人口推計では、子どもが年間50～100人減っていくと見込まれているが、低年齢児の保育ニーズは高まっていくと予想される中で、幼稚園の施設をどうしていくかを統廃合を含めながら今後考えていかなければならない。

誰でも通園制度については、現在月10時間というところが議論されている。月2、3日しか預けられないと考えると、プチ保育の方が充実しているのではないかと思うため、プチ保育を残して手厚い支援をしてほしい。

外国籍の子ども達についても大きな課題となってきた。特に学習面について。難しいところだが、小学校等で学習面をどれだけ支援できるかが大切である。

障害児の受け入れについては、手厚い支援を行うためには、どうしても人員が必要となり予算がかかる。現場に足を運ぶが、支援が必要な子どもが増えてきており、数字には見えない大変さがあると感じる。実情に合わせた職員配置ができるように検討してほしい。

保育士の掘り起しについては、養成校と自治体が連携して保育者を現場に戻

せるような取り組みができると良いと思う。

国の動向を敏感に察知ながら支援事業計画が作られているため、市民に幅広く周知してできると良いと思う。

事務局：委員の皆さまに貴重なご意見をいただいた。支援事業計画の基本理念にもあるように、子どもの育ちをみんなで支えあうまち碧南を目指し、施策や意識改革を進めていきたい。子どもを取り巻く環境の充実ついて引き続きご協力をいただきたい。